

第7 1次印旛地区教育研究集会（社会科教育・中学校）

基礎的・基本的な知識を定着させる社会科学習の在り方

～一人一台タブレット端末の有効活用を目指して～

成田市立久住中学校

木内 修子

## 1 研究主題

### 基礎的・基本的な知識を定着させる社会科学習の在り方

#### ～一人一台タブレット端末の有効活用を目指して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領から

学習指導要領総則では「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を活かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、生徒の発達段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基礎をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。」と示されている。また、「情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これを適切に活用した学習活動の充実に図ること」とあり、今後一層浸透していく情報技術を生徒が手段として学習や日常生活に活用できるようにするため、各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実に図ることとしている。加えて、「生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の状態の応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実に図ること。その際、(略)情報手段や教材・教具の活用を図ること。」としており、個に応じた指導の充実に図るに当たり、ICTを活用する事としている。本年度より本校でも導入されている一人一台のタブレット端末を授業に取り入れ、「基礎的・基本的な知識」を「確実に習得」させるために効果的な授業の在り方の追求を研究主題に設定した。

### (2) 印教研研究主題から

「よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習  
～自ら課題を見だし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

本研究は、上記の印教研社会科研究部主題を受けて設定している。グローバル化が進む今日では、生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力を培うことはこれからの社会の急激な変化に対応するために必要なことであり、また、社会で生かせる力の育成には、ICTの利活用が必須であると考え。ICTの利活用の推進を含め、コロナ禍での活動の工夫についても積極的な取組の必要性が増している中、タブレット端末を活用した授業実践を行う中で、今後の在り方について追究していきたい。

### (3) 本校生徒の実態から

本校は、成田市の中央に位置し、全校生徒168人(全9学級、特別支援学級含む)から成る小規模校である。久住中央地区の区画整備事業も終了し、JR成田駅まで約10kmと通勤にも便利であるため、年々人口が増加しており、昨年度までは単学級の学年も存在したが、本年度より1学年3学級、2・3学年2学級、特別支援学級2学級となっている。

生徒の実態を把握するためにアンケート(2学年51名)を実施したところ、以下のような結果であった。

#### 社会の授業は好きですか

- 好き(26人)
- どちらかといえば好き(20人)
- どちらかといえば嫌い(4人)
- 嫌い(1人)

社会科の授業を「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒は約90%であり、学年全体として社会の授業を楽しみにしている生徒が多かった。

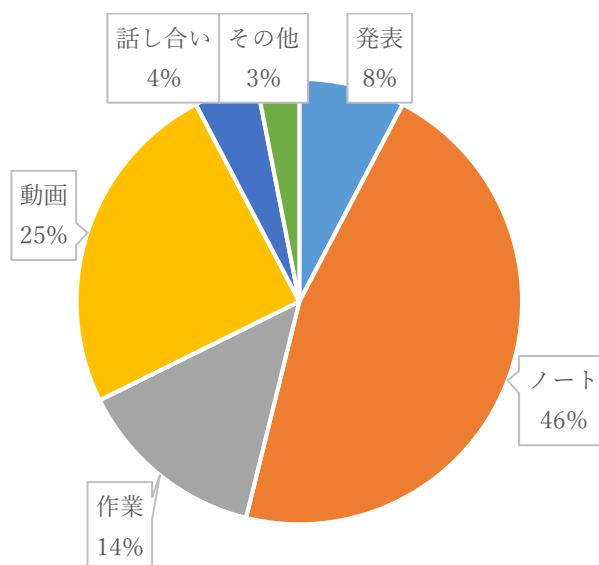
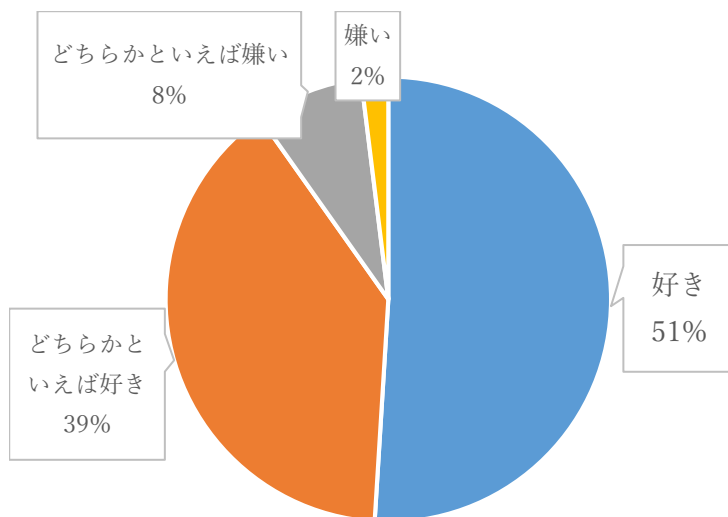
「嫌い」「どちらかという嫌い」と答えた理由としては、「覚えられない」「覚えることが多すぎてわからない」といった意見が見られた。

#### 社会の授業で楽しいと思うことは何ですか

- 発表すること(5人)
- ノートをとめること(30人)
- 作業を行うこと(9人)
- 動画等を見ること(16人)
- 話し合い活動をする(3人)
- その他(2人)

発表や話し合い活動などよりも、ノートをとめたり、作業や動画視聴など、やや受け身がちな傾向にある生徒が多い。その他と答えた生徒は「先生の話聞く」ことが楽しいと回答している。

今年度より一人一台タブレット端末の活用を始めた。社会科だけでなく、他教科においてもタブレット端末を活用した授業を取り入れており、生徒は積極的にタブレット端末を活用する環境にある。アンケート結果から、一人でコツコツ作業等を行うことを好む傾向にあり、今回タブレット端末を活用した授業を取り入れることで、授業に対する意欲もさらに高まると考えられる。また、1年次の「世界の諸地域」の学習では、单元ごとに小テストを行っていたが、今回タブレット端末を導入することで、知識の定着につなげることができるのではないかと考えた。スマートフォンやパソコンの保有率も高く、使い慣れている生徒も多く効果が期待できるのではないかと考えた。



### 3 研究目標

基礎的・基本的な知識の定着のために、タブレット端末等のICTを授業に計画的に取り入れることにより、生徒の学習への意欲が高まり、基礎的・基本的な知識の定着につながることを、実践を通して明らかにする。

### 4 研究仮説と手立て

#### <仮説1>

タブレット端末のドリル学習用ソフトを活用し、繰り返し学習することで、基礎・基本の定着につながるだろう。

#### <手立て>

各単元のまとめの学習において、タブレット端末のドリル学習用ソフトを取り入れ、基礎的・基本的な知識の習得を徹底できると考える。ゲーム感覚で取り組める学習用ソフトであるため、学習が苦手な生徒においても楽しみながら取り組むことができると考える。また、文字を書くことが苦手な生徒にとっても有効な手段となると思われる。

#### <仮説2>

基礎復習プリントを活用し、基礎的内容をまとめた問題を解くことで、基礎・基本の定着につながるだろう。

#### <手立て>

タブレット端末のドリル学習用ソフト実施後、基礎復習プリントを実施し、繰り返し学習することによって、基礎的・基本的な知識の定着につながる则认为。繰り返し学習することで、知識の定着につながる则认为。

### 5 研究実践

単元末に基礎復習プリントを実施。その後タブレット端末を導入した授業を行い、学習のまとめとして最後に単元末小テストを行う。

単元名 地理的分野 「第3章 日本の諸地域 1節九州地方（及び2節中国・四国地方）」

時数	内容
1時間目：九州地方の生活の舞台	教科書の内容に沿った学習プリントを活用した授業展開を行う。穴埋め形式のプリント、白地図等を使用。デジタル教科書を大型テレビで提示。動画等はタブレット端末より大型テレビにて視聴。
2時間目：九州地方の人々の営み	
3時間目：多様な環境問題と環境保全の取り組み	
4時間目：工業化・都市化にともなう地域への影響 持続可能な社会を創る	

5時間目 九州地方の学習をふり返ろう	授業で行った内容の基礎復習プリントを行ったのち、 タブレット端末の学習ソフト「ミライシード（ドリルパーク）」のドリルパークでの復習を行う。 最終的に単元のまとめ小テストを実施。
-----------------------	--

【基礎復習プリント】

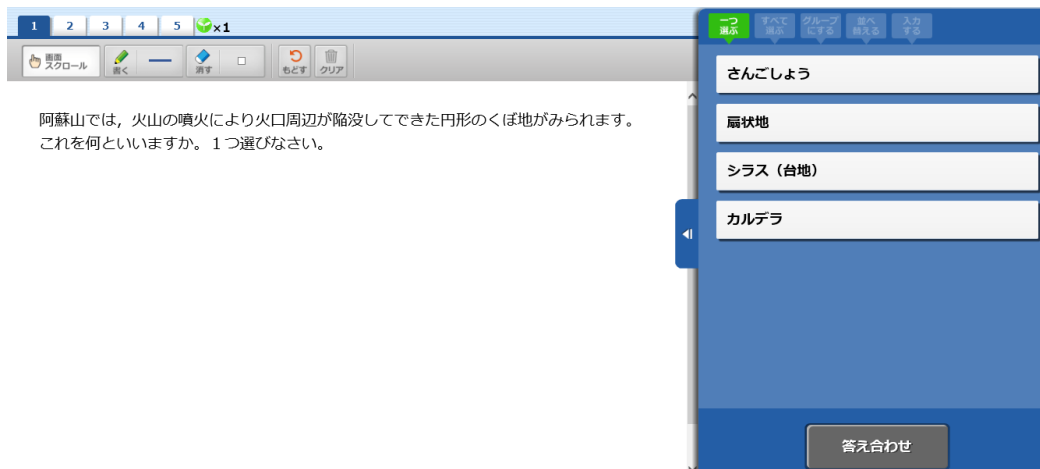
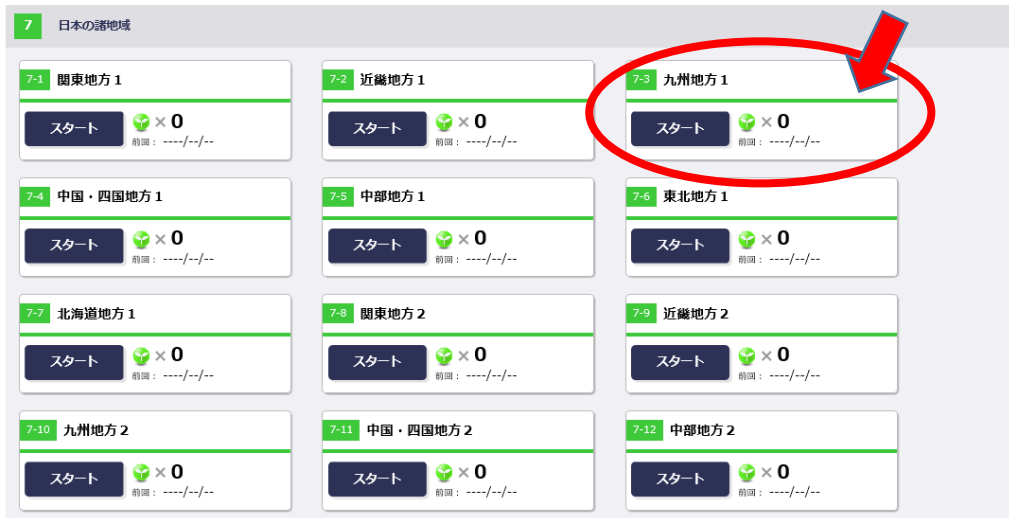
＜九州地方復習プリント1＞ 氏名（ ）

阿蘇山では、火山の噴火により河口周辺が陥没してできた円形のくぼ地がみられる。これを何というか。 1. シラス 2. カルデラ 3. さんごしょう 4. 扇状地
温暖な気候やビニールハウスなどの施設を利用して、作物の生育を早めて出荷時期を早くする促成栽培によって、ピーマンやキュウリなどの生産がさかんに行われている九州地方の平野はどこか。 1. 熊本平野 2. 福岡平野 3. 宮崎平野 4. 筑紫平野
かつての公害の教訓を生かし、現在はリサイクル工場を集めたエコタウン事業などの環境問題に取り組んでいる九州地方の都市は？ 1. 熊本県熊本市 2. 福岡県北九州市 3. 長崎県長崎市 4. 鹿児島県鹿児島市
九州地方の産業について正しく述べているものはどれか？ 1. 現在、九州地方でとれる石炭が工業を支えている 2. 火山灰の台地が広がる南部では、昔から稲作がさかんに行われてきた 3. 沖縄県では、観光産業などの第三次産業が盛んである
第二次世界大戦後から1972年まで沖縄県を軍政下に置き、今なお沖縄県内に多くの軍事基地を置く国はどこか。 1. 中華人民共和国 2. イギリス 3. フランス 4. アメリカ合衆国

＜九州地方復習プリント2＞ 氏名（ ）

近年活発な火山活動が見られる、鹿児島県にある火山を何というか。 1. 阿蘇山 2. 雲仙岳（普賢岳） 3. 桜島（御岳）
九州地方の西を流れる暖流を何というか。 1. 親潮（千島海流） 2. 黒潮（日本海流） 3. 対馬海流 4. リマン海流
九州地方の代表的な稲作地帯となっている、九州地方最大の平野を何というか。 1. 石狩平野 2. 筑紫平野 3. 濃尾平野 4. 宮崎平野
シラス台地について述べた文として適切でないものを選びなさい。 1. 火山の噴出物によってできた地層が広がる 2. 土がやせて水はけが悪く、洪水の被害を受けやすい 3. 牛、豚、にわとりなどを飼育する畜産が盛んである
九州地方の農業について述べた文として適切なものを選びなさい。 1. 筑紫平野では、米と小麦の二期作が行われてきた 2. 宮崎平野ではきゅうりの抑制栽培がさかんである

【学習ソフト「ミライシード（ドリルパーク）」】



① 2 3 4 5 x2

画面スクロール 消く 消す もどす クリア

温暖な気候やビニールハウスなどの施設を利用して、作物の生育を早めて出荷時期を早くする促成栽培によって、ピーマンやきゅうりなどの生産がさかんに行われている九州地方の平野はどこですか。1つ選びなさい。

一つ選ぶ すべて消去 グループにする 選べ 戻せる 入力する

筑紫平野  
宮崎平野  
熊本平野  
福岡平野

答え合わせ

① ② 3 4 5 x3

画面スクロール 消く 消す もどす クリア

かつての公害の教訓を生かし、現在はリサイクル工場を集めたエコタウン事業などの環境問題に取り組んでいる九州地方の都市を、1つ選びなさい。

一つ選ぶ すべて消去 グループにする 選べ 戻せる 入力する

熊本県熊本市  
長崎県長崎市  
鹿児島県鹿児島市  
福岡県北九州市

答え合わせ

① ② ③ 4 5 x4

画面スクロール 消く 消す もどす クリア

九州地方の産業について正しく述べているものを、1つ選びなさい。

一つ選ぶ すべて消去 グループにする 選べ 戻せる 入力する

現在、九州地方でとれる石炭が工業を支えている。

沖縄県では、観光産業などの第3次産業が盛んである。

火山灰の台地が広がる南部では、昔から稲作がさかんに行われてきた。

答え合わせ

【単元末小テスト】

九州地方確認小テスト

氏名（ ）

1	阿蘇山では、火山の噴火により河口周辺が陥没してできた円形のくぼ地がみられる。これを何というか。
2	温暖な気候やビニールハウスなどの施設を利用して、作物の生育を早めて出荷時期を早くする促成栽培によって、ピーマンやキュウリなどの生産がさかんに行われている九州地方の平野はどこか。
3	かつての公害の教訓を生かし、現在はリサイクル工場を集めたエコタウン事業などの環境問題に取り組んでいる九州地方の都市は？
4	九州地方の産業について正しく述べているものはどれか？ ア：現在、九州地方でとれる石炭が工業を支えている イ：火山灰の台地が広がる南部では、昔から稲作がさかんに行われてきた ウ：沖縄県では、観光産業などの第三次産業が盛んである
5	第二次世界大戦後から 1972 年まで沖縄県を軍政下に置き、今なお沖縄県内に多くの軍事基地を置く国はどこか。
6	近年活発な火山活動が見られる、鹿児島県にある火山を何というか。
7	九州地方の西を流れる暖流を何というか。
8	九州地方の代表的な稲作地帯となっている、九州地方最大の平野を何というか。
9	シラス台地について述べた文として適切でないものを選びなさい。 ア：火山の噴出物によってできた地層が広がる イ：土がやせて水はけが悪く、洪水の被害を受けやすい ウ：牛、豚、にわとりなどを飼育する畜産が盛んである
10	九州地方の農業について述べた文として適切なものを選びなさい。 ア：筑紫平野では、米と小麦の二期作が行われてきた イ：宮崎平野ではきゅうりの抑制栽培がさかんである ウ：山がちな地域では棚田をつくって稲作を行っている
11	次の文中の[ あ ]・[ い ]にあてはまる語句を答えなさい。 北九州工業地域では、筑豊炭田の石炭などを利用する[ あ ]が早くから発達したが、1960 年代以降[ い ]が進むと、北九州地域の地位が低下した。
12	九州地方には火山が多く分布している。火山の恵みを利用している施設を2つ答えなさい。
13	高度経済成長期に熊本県南西部で発生した、有機水銀を原因物質とする公害病を何というか。
14	沖縄県について述べた文として適切でないものを選びなさい。 ア：温かくきれいな海水によりさんご礁が発達している イ：かつて琉球王国という国が栄えた ウ：伝統的な住居はヤシの葉でつくられた高床式住居である



## 6 仮説の検証

### <仮説1>

タブレット端末のドリル学習用ソフトを活用し、繰り返し学習することで、基礎・基本の定着につながるだろう。

1年次の世界の諸地域では、タブレット端末は使用せず、復習の時間を数分取った後、小テストを行っている。2年次となり、タブレット端末学習ソフト「ミライシード（ドリルパーク）」を活用後に行った小テストの結果と比較した表は以下の通りである。

### <1年次 世界の諸地域小テスト>

	アジア	ヨーロッパ	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	オセアニア
平均	47%	67%	67%	53%	67%	60%

各地域とも15点満点。

### <2年次 日本の諸地域小テスト>

	九州地方	中国・四国地方
平均	87%	94%

九州地方は15点満点、中国・四国地方は16点満点。

1年次の小テスト正答率は平均60%であったが、2年次の正答率は平均91%と大きく上昇した。繰り返し復習に取り組むことで知識の定着につながったと考えられる。また、タブレット端末を用いた学習ソフトはゲーム感覚で行うことができ、楽しんで取り組む生徒がとても多かった。

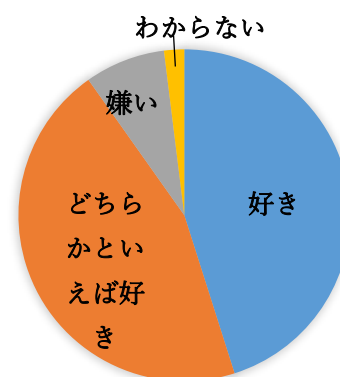
「タブレット端末を活用した学習は好きか」というアンケートでは「好き（23人）」、「どちらかといえば好き（23人）」、「どちらかといえば嫌い（0人）」、「嫌い（4人）」、「よくわからない（1人）」という結果であった。この結果から見ても半数以上の生徒がタブレット端末を活用しての学習に意欲的であることがうかがえる。「

好き」「どちらかといえば好き」と答えた理由として多かったものは

- ・楽しく覚えることができる
- ・ゲーム感覚でできるところがいい
- ・自分のペースでできるから好き
- ・タブレット学習をすることで内容や単語がかなり頭に入ってきて暗記が早くできるようになったから
- ・普通に学習するよりも頭に入りやすい気がするからなどであった。

「嫌い」と答えた理由としては、

- ・先生が説明をした授業のほうがわかりやすく楽しいから



- ・タブレットを使うのが好きではないから
- ・身についた気がしない、同じ問題ばかりだから

といった意見が見られた。スマートフォンやパソコンの所持率も高く、ほとんどの生徒は身近な道具としてタブレット端末を活用できるスキルを身に付けているため、楽しんで取り組める反面、タブレット端末の学習ソフトの問題なら答えられるが、問い方が違う問題になると答えられなくなってしまうのでは、という不安の声も聞かれた。

#### <仮説2>

基礎復習プリントを活用し、基礎的内容をまとめた問題を解くことで、基礎・基本の定着につながるだろう。

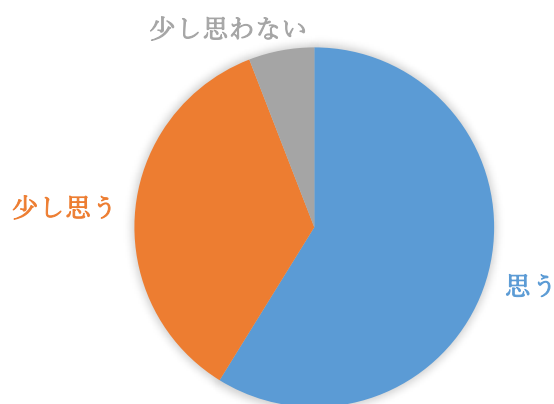
タブレット端末学習ソフト「ミライシード（ドリルパーク）」で復習する前に、基礎復習プリントに取り組ませた。基礎復習プリントでの正答率とミライシード（ドリルパーク）学習後の小テストの正答率を比較した表が以下の通りである。

	九州地方 基礎復習プリント	九州地方 小テスト	中国・四国地方 基礎復習プリント	中国・四国地方 小テスト
正答率	75%	88%	83%	91%

基礎復習プリントは14点満点。小テストは九州地方15点満点、中国・四国地方16点満点。

問題としては、小テストの方が基礎復習プリントより難しいものになっているが、九州地方、中国・四国地方いずれも、基礎復習プリントの正答率より小テストでの正答率の方が高いという結果となっている。タブレット端末学習ソフト「ミライシード（ドリルパーク）」を繰り返し学習したことにより、基礎・基本の定着につながったのではないかと考えられる。

「タブレット学習で学んだ知識は深まったと思うか」というアンケートでは、「思う（30人）」「少し思う（18人）」「少し思わない（3人）」「まったく思わない（0人）」という結果であった。生徒たちの実感として、今までの学習方法よりも学習内容が身についたと感じている生徒が多いことがわかる。復習を行ってからすぐに小テストを行っているため、短期記憶である可能性も十分考えられるため、今後時間をおいて再度小テスト等を行い再度検証する必要がある。



## 7 成果と課題

### (1) 成果

- ゲーム感覚で進めることができる学習ソフトであるため、何度も繰り返し行いたいと思う生徒が多く、復習することが楽しいと感じ、学習に対する意欲が高まった。
- 繰り返し復習することで、知識の定着につながり、小テストの平均点数が上昇した。
- スマートフォンやパソコン保有率が高く、操作が困難な生徒が少なく、スムーズにタブレット学習に取り組むことができた。
- 書く作業が苦手な生徒も、タブレット学習であればタッチするだけなので意欲的に復習することができた。また、選択肢から選んで答えるため、何回か取り組むことで、社会科が苦手な生徒でも答えにたどり着くことができるため、途中であきらめてしまう生徒は少なかった。

### (2) 課題

- 学習ソフトを利用して復習した後、すぐに小テストを行っている。また、学習ソフトと同じ問題を小テストで出題しているため、知識としてしっかりと定着がはかれているかは、再度検証する必要がある。
- 同じ問題ばかり解いていると学力の高い生徒ほど飽きてしまう傾向にあったため、別の手立ても必要であると感じた。
- 授業中にタブレット端末を使用際のルール構築が必要不可欠である。(この時間はミライシード(ドリルパーク)しかやってはいけない、など。)
- 家庭学習としても活用できるように学校全体でもルールを構築し、社会科だけでなく、他教科でも有効活用できるような体制作りが必要。
- タブレット端末のさらなる有効活用のための教員側の研修が必要である。今後は、他の学習ソフトを利活用し、思考力・判断力・表現力などを身につけさせられるよう指導していきたい。